

# 衆議院外務委員会ニュース

平成 26. 2. 21 第 186 回国会第 2 号

2 月 21 日（金）、第 2 回の委員会が開かれました。

## 1 国際情勢に関する件

- ・岸田外務大臣、岸外務副大臣、石原外務大臣政務官、若宮防衛大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行いました。

（質疑者及び主な質疑内容）

### 原 田 義 昭 君（自民）

- ・先般自民党の東シナ海資源開発 P T が政府に対して、中国の東シナ海油ガス田開発問題についての提言を行ったが、同提言を踏まえ、政府はもっと戦略的に対応すべきではないか。
- ・中国及び韓国は世界各地で戦略的な宣伝活動を進めており、その規模、内容は我が国を圧倒している。日本政府においては、戦略的な広報とそのための予算の拡充が必要ではないか。
- ・本年 4 月に予定されている米国のオバマ大統領の訪日は今後の日米関係にとっても重要と考えるが、これに臨む岸田外務大臣の意気込みについて伺いたい。

### 上 田 勇 君（公明）

- ・日米防衛協力のための指針（ガイドライン）の見直しについて、2014 年末までに完了する予定とされるが、現在までの進捗状況と今後の展開について伺いたい。
- ・本年 2 月の日米外相会談において、岸田外務大臣は「実利に基づく協力案件を積み上げて」日韓関係を改善したい旨述べたとのことだが、具体的にどう取り組むのか伺いたい。
- ・二国間政府開発援助の分野別配分において、我が国は他の主要 DAC 諸国と比較して、明らかに経済インフラの比率が高い傾向が見られるが、どのような援助方針によるものか伺いたい。

### 松 本 剛 明 君（民主）

- ・安重根記念館開設問題に見られるように、我が国にとって認められない既成事実を積み重ねる動きに対して、日本政府として戦略的な対処が必要と考えるが、岸田外務大臣の所見を伺いたい。
- ・安倍内閣総理大臣及び岸田外務大臣の外遊先として G20 はどのように位置付けられているのか、また、今後の閣僚の海外出張については政府全体で戦略を持って行き先を選定すべきではないか。

- ・2014 年に入って、安倍内閣総理大臣及び岸田外務大臣の発言において、積極的平和主義はほとんどの場合「国際協調主義に基づく」という文言と共に用いられるようになったが、「国際協調主義に基づく」の有無による積極的平和主義の意味の違いについて伺いたい。

### 小 川 淳 也 君（民主）

- ・2 月 18 日に韓国において日韓局長級協議が実施されたがその狙い及び今後の展望について伺いたい。
- ・安倍内閣総理大臣のソチオリンピック開会式出席に関連して、テロのリスクをどう評価していたのか、また、欧米主要国の首脳が主に人権問題を理由に出席していないことについて日本政府はどう考慮したのか、さらに、中国の習近平国家主席が開会式に出席することも考慮したのか、という 3 点について伺いたい。
- ・政府による明示的な憲法解釈変更の有無及びそれに伴い国内の法制度を変更した例はあるのかどうか伺いたい。

### 渡 辺 周 君（民主）

- ・集団的自衛権の行使容認を巡る議論が進められていることを踏まえ、一般論として、憲法解釈の変更が行われた場合、政府は対外的にどのような説明が必要と考えているのか。
- ・集団的自衛権の行使を容認する憲法解釈の変更が、自衛権発動 3 要件や、日米安全保障条約を始めとするさまざまな条約や法令に対しどのような影響を与えると政府において検討されているか。
- ・2 月 17 日に公表された、北朝鮮における人権に関する国連調査委員会の報告書の内容を、政府はどのように拉致問題の解決に向けて活用するつもりか。

### 阪 口 直 人 君（維新）

- ・顔の見える外交を推進すべきと考えるが、我が国政府としていかなる方法で外交を進めていくつもりか。
- ・昨年 12 月の日カンボジア首脳会談で合意されたカンボジ

アに対する我が国の選挙改革支援の進捗状況及び今後の方針について伺いたい。

- ・ミャンマーにおいて帰還民支援を行うジャパン・プラットフォームの活動地域を拡大できないか、また日本財団が実施している支援は、我が国政府から多額の資金拠出を得ており、政府としてその活動をしっかりと検証すべきではないか。

### **小 熊 慎 司君 (維新)**

- ・北朝鮮における人権に関する国連調査委員会の報告書の内容を反映した国連人権理事会決議の採択に向け、政府は、中国を含む理事国にどのような働きかけを行うのか。
- ・日台民間漁業取決め及びその後の日台漁業委員会における合意に対し地元漁業者から不満が示されているが、政府はどのように対応するのか。
- ・今年で60周年を迎える我が国のODAについて、「選択と集中」から戦略的な観点からの規模の拡大へと方針を転換すべきではないか。

### **青 柳 陽一郎君 (結い)**

- ・安倍総理が提唱する「積極的平和主義」は一部の国からの反発を招くなど、近隣諸国との国際協調を乱しているのではないかと捉える向きもあるが、岸田外務大臣の見解を伺いたい。
- ・本年1月に開催された第50回ミュンヘン安全保障会議において岸田外務大臣は何を発信し、どのような成果があったのか。
- ・TPP交渉が山場を迎えているが、岸田外務大臣はTP

P交渉においてどのような役割を果たしているのか。

### **笠 井 亮君 (共産)**

- ・今月14日にメキシコで開催された第2回「核兵器の非人道性に関する国際会議」に対する評価及びその際に発表された議長総括について岸田外務大臣の見解を伺いたい。
- ・今月20日に長崎大学で開催された核軍縮・不拡散政策スピーチにおいて、岸田外務大臣が、「核兵器を保有する国は個別的・集団的自衛権の如何を問わず、核の使用は極限の状況下に限定すべき」旨主張したが、これは核の使用を認めるということになるのではないか。
- ・米軍普天間飛行場の移設先となる辺野古の新基地で、米軍F35Bステルス戦闘機による離着陸の実施を想定していることを沖縄防衛局職員が認めたとする報道は事実であるのか。

### **玉 城 デニー君 (生活)**

- ・今月18日に開催された「普天間飛行場負担軽減推進会議」は、名護市長選の結果に見られる沖縄県の民意に沿って進めることこそ、真の同盟強化につながるのではないか。
- ・安倍総理の靖国参拝に対する米側の批判についての総理側近の発言は憂慮すべきことと思われるが、岸田外務大臣の見解を伺いたい。
- ・今月18日に「日ASEAN諸国防衛当局次官級会合」が、初めて沖縄で開催された目的及び意義は何か。